井上かつひろ
ホームページ
☆「QR コード」を読み取って閲覧☆

「住民こそ主人公」
市議会報告
きずな

「きずな」の定期配布
「きずな」は、市政や市議会など身近な情報を提供する地域情報紙をめざしています。定期的な配布（無償）希望の方は連絡を下さい。

第 1144 号
2026 年 1 月 11 日
発行　日本共産党井上かつひろ事務所
薩摩川内市樋脇町塔之原 10439
TEL 38-0237 携帯 080-3996-0237

12 月市議会
一般質問

介護現場は限界寸前

―赤字と人手不足、市は本気で支える姿勢を―

12月市議会で井上勝博議員は、市内介護事業者の深刻な経営実態を取り上げ、市の支援姿勢をただしました。物価高騰と人材不足の中で、多くの事業所が「もう続けられない」と悲鳴を上げています。介護の崩壊は、そのまま市民の暮らしの崩壊につながります。

赤字続出、撤退の危機にある介護事業者

介護事業者との意見交換会では、7～8割の事業所が赤字、光熱費は1・5倍に上昇、人手不足で研修を受ける余裕もないという実態が明らかになりました。

特に訪問介護では、燃料費高騰により「自腹」でサービスを続けているケースもあります。

市は訪問介護事業所が減少していることを認めましたが、家賃補助や光熱費補助などの市独自支援には否定的な姿勢を示しました。

人材不足で外国人材に頼らざるを得ない現場

人材確保のため、外国人介護人材の受け入れが進んでいますが、住居確保や交通手段、地域との関係づくりなど課題は多くあります。

市は説明会の開催などを紹介しましたが、現場からは「制度が十分伝わっていない」「生活支援が足りない」という声も出されています。

井上議員は、安心して働き、暮らせる環境整備こそが介護を支える土台だと指摘しました。

介護を守るのは市の責任

市は資格取得支援などを行っていると答弁しましたが、井上議員は「根本問題は賃金の低さにある」と強調。国に対し介護報酬の引き上げを強く求めるとともに、市としても踏み込んだ支援策を示すべきだと訴えました。

鳥獣被害対策

イノシシ被害、可視化を

―農家を守る本気の対策を―

農地を荒らすイノシシ被害が市内各地で深刻化しています。12月市議会で井上勝博議員は、被害実態の把握と対策の遅れを指摘し、科学的で計画的な取り組みを求めました。

市内に五五〇〇頭、被害は広がる一方

市の答弁によれば、市内のイノシシは約5，500頭と推定されています。目撃情報や捕獲記録はあるものの、地域ごとの分布や移動経路の把握、マップ化は行われていません。そのため、被害が集

（二面に続く）

こちらくらしの相談所
（No. 635）

携帯 080-3996-0237
（井上）
なんでもご相談ください。

子どもが3人以上いる家庭へ―児童手当の多子加算、就職しても対象になる場合がある

子どもが3人以上いるご家庭で、「上の子が就職したから、下の子の児童手当が減った」という相談が寄せられています。実は一昨年10月の制度改定により、18歳を超えて就職している子どもでも、22歳年度末までで、仕送りや生活費の負担など実質的に扶養している場合は、人数に含めることができると明確になりました。これにより、三番目の子は「第3子」として多子加算の対象になる場合があります。ただし、この制度は申請が必要で、原則として申請した月の翌月分からの支給です。「制度を知らなかった」だけでは、過去分が遡って支給されないことが多いのが実情です。「就職＝対象外」と思い込まず、3人以上の子を育てているご家庭は、早めに市役所へ相談することが大切です。今年も「こちくら」をよろしくお願いいたします。

お知らせ

松元ヒロさん公演のお知らせ

社会の出来事や政治を、鋭く、そしてユーモアたっぷりに語る松元ヒロさんの舞台は、笑いの中に「考えるヒント」が詰まった時間です。ぜひご参加ください。

【公演日程】
・2月13日（金）19時～
会場：ライカホール（鹿児島市中央町19-40 Li-Ka1920 5階）中央駅横
・2月14日（土）14時～
会場：同右
・2月15日（日）14時～
会場：国分シビックセンター（国分中央3丁目2―20）

【お問い合わせ・チケットのお申込み】
特定非営利活動法人かごしま子ども芸術センター
☎ 099（219）1478

二面もおよみください

（一面から続く）

中する地域への重点対策が難しく、農家からは「どこに相談すればいいのか分からない」との声も上がっています。

マップ化で「見える対策」を

井上議員は、全国の先進例を挙げ、出没状況や捕獲地点を地図化することの重要性を提案しました。無料で使える地理情報システム（GIS）を活用すれば、費用を抑えながら重点的な捕獲や予防が可能になります。

担い手の高齢化、若手育成が急務

捕獲従事者の高齢化も深刻です。市は罠猟免許取得への補助を行っていると答えましたが、銃猟ができる人材は極めて少なく、実動体制は十分とは言えません。

井上議員は、「人を育てなければ被害は減らない。農業を守る視点で、長期的な人材育成が必要だ」と強く訴えました。

農業を守る覚悟が問われている

イノシシ対策は、農家任せにして解決できる問題ではありません。井上議員は「被害を“見える化”し、市が責任をもって対策を進めることが必要だ」と、市の本気度を問いました。

エプロンおばさんの簡単クッキング（689）

シュクメルリ

材料（２人分）……

鶏もも肉２枚、ニンニク１個、牛乳８０～１００ミリリットル、オリーブ油適量

作り方

①鶏肉は半分に切り。塩・こしょう各適量をすり込み、冷蔵庫で約30分寝かせる。ニンニクは厚さ２～３ミリの輪切りにする。

②フライパンにオリーブ油を入れて中火で加熱し、鶏肉を皮の面から焼く。軽く焼き色をつけて裏返し、弱火で肉に火を通し、取り出す。

③②のフライパンにニンニクを入れ、焦がさないように弱火で炒める。水60から80ミリリットルを入れてよくまぜ、牛乳を加えてまぜる。②の鶏肉を戻し入れ、ソースを全体に絡めながら軽く煮込む。塩・こしょうで味を調える。完成です。

投稿より

※民報きずなに寄せられたH子さんからの投稿です

おいしくないリンゴ!!

私たち一家は、父は戦争にとられ、戦死しました。母は幼い私たち五人の子どもをつれて、父方の家にお世話になっていました。

働きに出ていた母が、心労と過労で倒れ、私は休んで看病しました。これといった栄養のあるものを母に食べさせることもできなかったので、兄弟で話し合って毎日リンゴを一個食べさせることにしました。

ところがいつも母は、「おいしくない」と言って、なかなか食べようとしませんでした。私は、なぜおいしいと言ってくれないのかと、悲しい思いで病床の母を見ていました。

結婚してだいぶたって、母にあのリンゴのことを聞いてみました。

「あのときは、食べ盛りのお前たちに十分食べさせてやれないのに、自分ばかり食べるのがつらくて、おいしくないと言ったのだよ」というのです。

それ以来、私は店先に置かれている色鮮やかなリンゴを見るたびに切ない記憶がよみがえり、私たちへの母の気配りを思い出し、胸が熱くなるのです。

※「シネマ太郎の映画評と案内」はお休みします。

中俣先生のつれづれなるままに（820）

←中俣先生のブログはこちら

あけましておめでとうございます。『文化薩摩川内』の編集委員をしている。担当は詩部門だ。その詩部門が、短歌・俳句に比べ、先細りで心配だ。応募者が高齢のため年々応募が少なくなっていく。今回も、最も期待していたKさんからの投稿がなかった。心配して電話を入れたところ、「主人は臥せっている」という奥さまの返事だった。臥せっているとはなかなかの古いことばで、今の若い人には通じないことばだが、要するに病気だということ。Kさんも高齢だから、病にかかって、床から頭が上がらないのだ。このため今回は3名のみの投稿となった。これには学校教育の影響もあろう。俳句や短歌は、教科書にふんだんに出てくるが、詩となるとさっぱり。また教える教師にしても、短歌や俳句は子どもに創らせても、詩となるとどうもといった感じ。社会的にも、俳句や短歌は広くイベントがあり、マスコミもそれを応援している。詩となるとこれまた乏しい。私を詩の世界に呼び込んだ恩師の茂山さんは、亡くなる前から詩人と呼ばれるのを嫌っていた。言われてみれば、俳人、歌人といったことばはきっちりした背広姿だが、詩人ということばの響きには、寝間着姿が浮かんでくる。それって、私だけの感じ方だが。そうしたことも影響しているのだろうか。私にしてもなんとか健康を保っているが、これがいつまで続くか分からない。〝きずな〟愛読者の人で詩に関心がある方、どうかご一報ください。待っています。（詩愛好家）